



## マウントと接続

---

この章では、Cisco Firepower 2100 セキュリティ アプライアンスのラックへの取り付け方法およびコードとケーブルの接続方法について説明します。次のような構成になっています。

- [シャーシのラックマウント, 1 ページ](#)
- [シャーシの接地, 7 ページ](#)
- [ケーブルの接続、電源の投入、接続の確認, 7 ページ](#)

## シャーシのラックマウント

次の警告を記録しておいてください。



### 警告

---

ステートメント 1006 : ラックへの設置と保守に関するシャーシ警告

ラックに装置を取り付けたり、ラック内の装置のメンテナンス作業を行ったりする場合は、事故を防ぐため、装置が安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次の注意事項を守ってください。

- ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
  - ラックにすでに他の装置が搭載されている場合は、最も重いコンポーネントをラックの一番下にして、重い順に下から上へと搭載するようにしてください。
  - ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。
-

**警告** ステートメント 1024 : アース導体

この装置は、接地させる必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。

**警告** ステートメント 1047 : 過熱の防止

システムの過熱を防ぐため、最大推奨周囲温度の 40°C を超えるエリアで操作しないでください。

この手順では、ラック キットを使用して Firepower 2100 シリーズをラックに設置する方法について説明します。2100 シリーズのすべてのモデルに適用されます。2110 および 2120 の場合は、シャーシに 3 本のネジを取り付け、スライドレールを固定します。2130 と 2140 の場合は、シャーシにペグを取り付けてスライドレールを固定します。シャーシのラッキングに関連する PID の一覧については、[製品 ID 番号](#) を参照してください。

**はじめる前に**

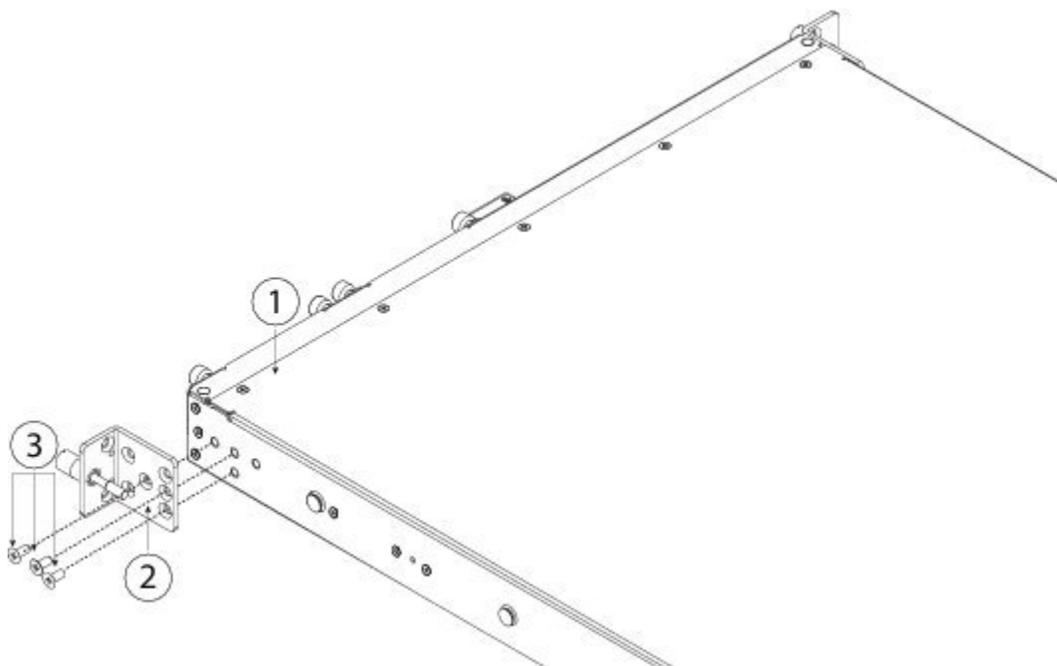
ラック (4 本支柱型の EIA-310-D ラック) に Firepower 2100 を取り付けるには次が必要です。

- #1 プラス ドライバ
- 次のものが含まれている Firepower 2100 キット
  - スライドレールセット X 1
  - 非脱落型ネジ付きのブラケット X 2
  - 8-32 0.25 インチ ネジ X 6
  - M3x6mm ネジ X 2
  - 8-32 インチ肩付きネジ X 6

スライドレールアセンブリは、4本支柱型ラック、およびラック支柱前面に角型スロット、7.1mmの丸穴、#10-32のネジ穴、および#12-24のネジ穴が付いたキャビネットに使用します。スライドレールは、ラック支柱の前面から背面へ24～36インチの間隔をとって使用します。

**ステップ1** シャーシに付属のアクセサリ パッケージに入っている6本の8-32 x .375インチ皿穴プラスネジを使用して、シャーシの両側にラックマウントブラケットを取り付けます（片面3本）。

図1: シャーシ側面へのラックマウントブラケットの取り付け



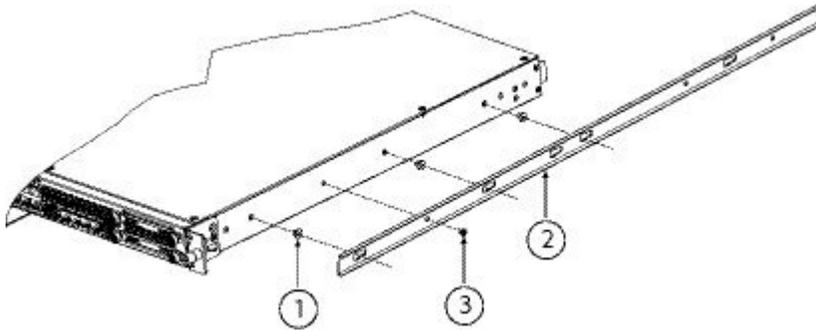
1	シャーシ	2	ラックマウントブラケット
3	8-32 x 0.25 インチ皿穴プラスネジ（各側面に3本）		

**ステップ2** シャーシの側面に内側レールを装着します。

- スライドレールアセンブリから内側レールを取り外します。
- シャーシの各側面に内側レールを合わせます。

- 2110/2120 の場合は、シャーシの両側に 3 本の 8-32 インチ ネジを取り付け、レールの 3 つの スロットがシャーシのネジと揃うように内側レールを合わせます。

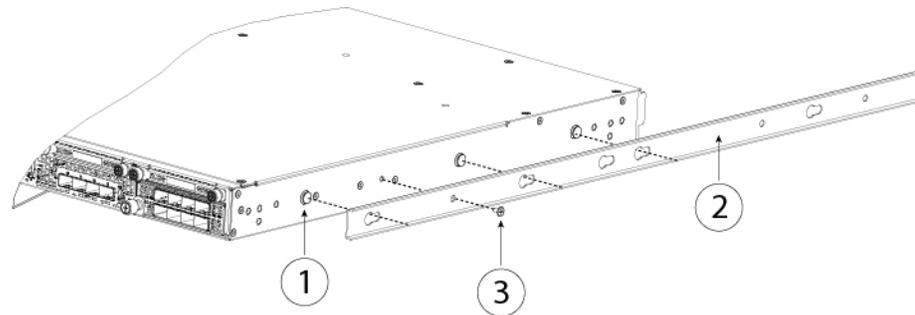
図 2 : 2110/2120 シャーシへのネジの取り付けと内部レールの整列



1	8-32 インチ ネジ	2	内側レール
3	M3X6mm ネジ (各側面に 1 つ)		

- 2130/2140 の場合は、レールの 3 つの スロットがシャーシの側面にある 3 つのペグと並ぶように、内側レールを調整します。

図 3 : 2130/2140 シャーシのペグを使用した内側レールの整列



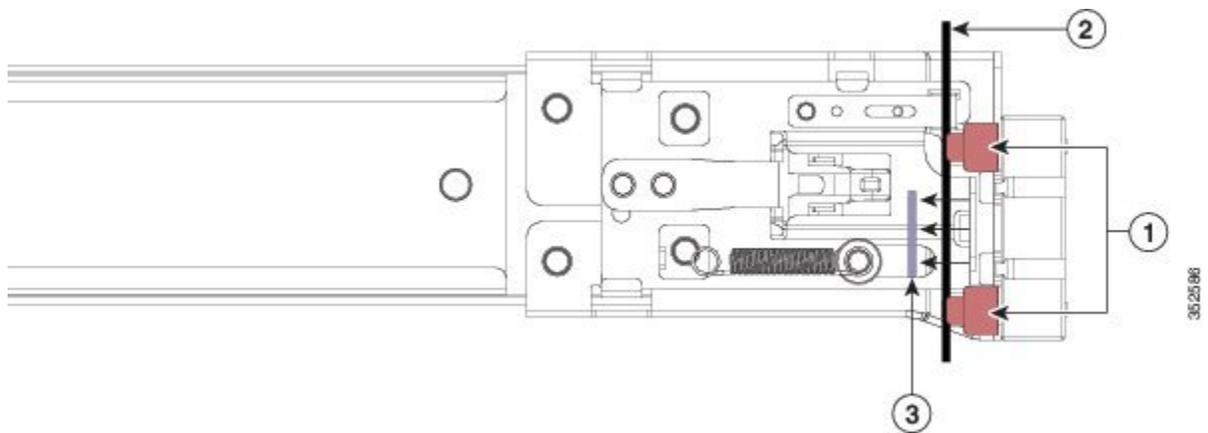
1	キー付きスロット用のシャーシ上の取り付けペグ	2	内側レール
3	M3X6mm ネジ (各側面に 1 つ)		

- c) キー付きスロットをネジ/ペグに設定し、レールを前面に向けてスライドさせて、ネジ/ペグの所定の位置にロックします。背面キー スロットには、ネジ/ペグにロックするための金属製クリップがあります。
- d) 1本の M3X6mm ネジを使用して、スライドしないように内側レールをシャーシの側面に固定します。
- e) 2番目の内側レールをシャーシの反対側に取り付けて、別の M3X6mm ネジで固定します。

**ステップ 3** 両方のスライド レール部品で前面の固定プレートを開きます。スライド レール部品の前端に、バネ仕掛けの固定プレートがあります。取り付けペグをラック支柱の穴に挿入する前に、この固定プレートが開いている必要があります。

部品の外側で、背面を向いている緑色の矢印ボタンを押して、固定プレートを開きます。

図 4: 前端の内側の前面固定のメカニズム



1	前面側の取り付けペグ (注) 角型スロット、7.1mm 穴、および 10-32 ネジ穴で使用。	2	開いた位置に引き戻された固定プレート
3	ラック支柱		

**ステップ 4** 次の手順に従って、スライド レールをラックに取り付けます。

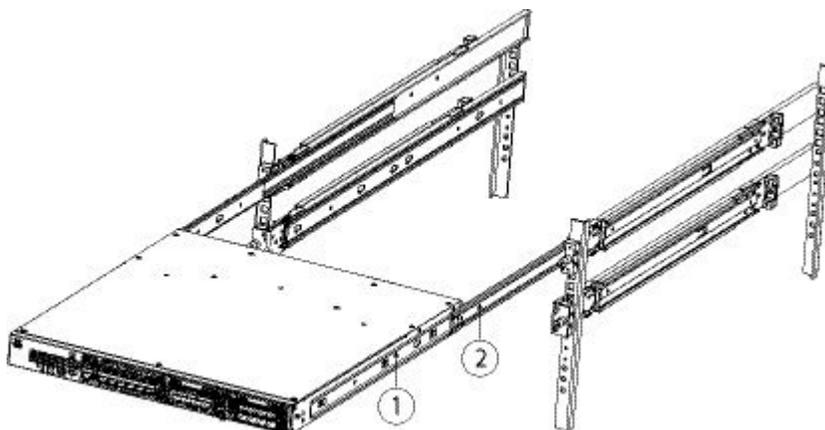
- a) 片側のスライド レール部品の前端を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。スライド レールの前部がラック支柱の外側を回り込むように配置され、取り付けペグが外側の前部からラック支柱の穴に入ります。  
(注) ラック支柱は、取り付けペグと開いた固定プレートの間にある必要があります。
- b) 取り付けペグを、外側前面からラック支柱の穴に差し込みます。
- c) 「PUSH」のマークが付いた固定プレートのリリースボタンを押します。ばね仕掛けの固定プレートが閉じて、ペグが所定の位置にロックされます。

- d) スライドレールの長さを調整したら、背面取り付けペグを対応する背面ラック支柱の穴に差し込みます。スライドレールは前面から背面に向かって水平である必要があります。背面取り付けペグを、ラック支柱の内側から背面ラック支柱の穴に入れます。
- e) 2つ目のスライドレール部品を、ラックの反対側に取り付けます。2個のスライドレール部品が相互に同じ高さであり、水平になっていることを確認します。
- f) 所定の位置に収まって留まるまで、各部品の内側のスライドレールをラック前方へ引き出します。

#### ステップ5 シャーシをスライドレールに装着します。

- a) シャーシの側面に装着されている内側レールの背面を、ラック上の空のスライドレールの前端の位置に合わせます。
- b) 内部の停止位置で止まるまで、内側レールをラック上のスライドレールに押し込みます。
- c) 両方の内側レールでリリースクリップを背面に向けてスライドさせたら、取り付けブラケットがスライドレールの前面と一致するまで、シャーシをラックに押し込みます。

図 5: 内側レールのリリースクリップ



1	内側レールのリリースクリップ	2	シャーシに装着されている内側レール
---	----------------	---	-------------------

#### ステップ6 取り付けブラケットの前面に非脱落型ネジを使用してシャーシをラックに完全に固定します。

##### 次の作業

シャーシの接地、(7 ページ) および ケーブルの接続、電源の投入、接続の確認、(7 ページ) を続けます。

## シャーシの接地



**警告** ステートメント 1024 : アース導体

この装置は、接地させる必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。



**警告** ステートメント 1046 : 装置の設置または交換

装置を設置または交換する際は、必ずアースを最初に接続し、最後に取り外します。



**警告** ステートメント 1025 : 銅の導体のみを使用

必ず銅の導体を使用してください。



**注意**

ラックがすでにアースされている場合でも、シャーシをアースすることが必要です。シャーシには、アースラグを接続するための、M4 ネジ穴が 2 つあるアースパッドが付いています。アースラグは、NRTL 認証済みである必要があります。また、銅の導体（線）を使用する必要があり、この導体は許容電流の NEC 規定に適合していなければなりません。

- ステップ 1** ワイヤストリッパを使用して、アース線の端から 0.75 インチ（19 mm）ほど、被膜をはがします。
- ステップ 2** むき出しになったアース線の端を、アースラグの開放端に差し込みます。
- ステップ 3** 圧着工具を使用して、アースラグにアース線を固定します。
- ステップ 4** シャーシのアースパッドに貼られているラベルをはがします。
- ステップ 5** 金属どうしがぴったり接触するように、アースラグをアースパッド上に重ね、アースラグとアースパッドの穴に、ワッシャ付きの 2 本の M4 ネジを差し込みます。
- ステップ 6** アースラグおよびアース線が他の機器の妨げにならないことを確認します。
- ステップ 7** アース線の反対側の端を処理し、設置場所の適切なアースに接続して、シャーシに十分なアースが確保されるようにします。

## ケーブルの接続、電源の投入、接続の確認

次の警告を記録しておいてください。

**警告** ステートメント 1005 : 回路ブレーカー

この製品は設置する建物に回路短絡（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。保護対象の装置は次の定格を超えないようにします。

定格 120 V、15 A（US）、250 V、16A（EU）

**警告** ステートメント 1007 : TN と IT の電源システム

この装置は、TN および IT の電源システムに接続するように設計されています。

**警告** ステートメント 1002 : DC 電源

より線が必要な場合は、認定された導線端子（閉回路、くわ型など）および上向きのラグを使用してください。これらの端子は導線に適したサイズのものを使用し、絶縁体と導体の両方に圧着する必要があります。

**警告** ステートメント 1003 : DC 電源の切断

次の手順を実行する前に、DC 回路に電気が流れていないことを確認してください。

**警告** ステートメント 1046 : 装置の設置または交換

装置を設置または交換する際は、必ずアースを最初に接続し、最後に取り外します。

**警告** ステートメント 1022 : デバイスの切断

容易にアクセス可能な二極切断装置を固定配線に組み込む必要があります。

**警告** ステートメント 1025 : 銅の導体のみを使用

必ず銅の導体を使用してください。

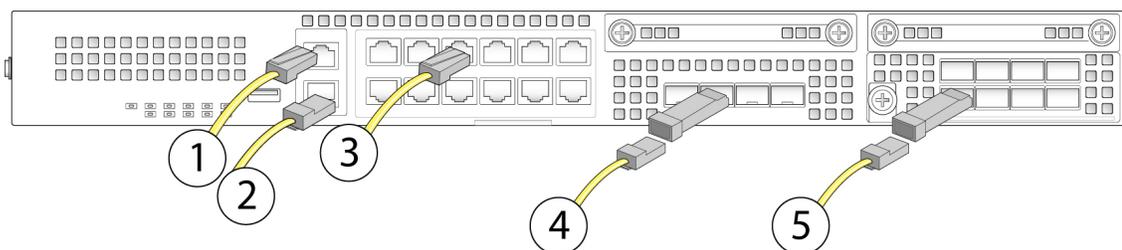
Firepower 2100 シリーズ セキュリティ アプライアンスをラックに取り付けたら、次の手順に従ってケーブルの接続、電源の投入、接続の確認を行います。2100 シリーズ シャーシに関連付けられる PID の一覧については、[製品 ID 番号](#) を参照してください。

**ステップ 1** コンソール ポートを接続します。

Firepower デバイス マネージャまたは CLI を使用して（そして Firepower Management Center を使用して設定を続行して）Firepower 2100 を初期設定できるように、シリアルコンソールケーブルを使用して、コンピュータまたはターミナルサーバを RJ-45 シリアルコンソールポートに接続します（ボーレートは 9600）。

- ステップ 2** 管理インターフェイスを接続します。  
Firepower 2100 アクセサリキットに付属の管理ケーブルを管理ポートに取り付けます。

図 6: Firepower 2100 セキュリティ アプライアンスへのケーブルの接続



1	ギガビットイーサネット管理インターフェイス (RJ-45) 管理 0 (管理 1/1 および診断 1/1 と呼ばれます)	2	コンソールポート (RJ-45)
3	10M/100M/1GBASE-T イーサネット (RJ-45) X 12 上のポートに接続するには、SFP+ を反転させます。 イーサネット 1/1 ~ イーサネット 1/12 (注) イーサネット 1/1 (WAN) ポートは、インターネットアクセス用にデフォルトで設定されています。DHCP 対応ケーブルモデム (インターネット) をこのポートに接続します。 (注) イーサネット 1/2 (内部) ポートは、内部アクセス用にデフォルトで設定されています。 <b>Firepower 2100 のブートストラップは、イーサネット 1/2 または管理 0 でのみサポートされています。</b>	4	1 ギガビットイーサネットデータインターフェイス (SFP) X 4

5	固定ポートギガビットイーサネットデータインターフェイス X 8		
---	---------------------------------	--	--

### ステップ3 SFP/SFP+ トランシーバをインストールします。

4つの固定ポート、またはネットワーク モジュール (2130/2140 のみ) のイーサネット ネットワーク インターフェイスに SFP/SFP+/トランシーバを取り付ける際は、背面の端子に触れないように注意します。

**警告** ソケットに SFP トランシーバを無理に押し込まないでください。トランシーバが引っかかって動かなくなり、トランシーバ、シャーシ、またはその両方に永久的な損傷を与える可能性があります。

**注意** シスコ以外の SFP は使用できますが、シスコではテストや検証が行われていないため、使用することは推奨されていません。Cisco TAC は、テストされていないサードパーティ製の SFP トランシーバを使用したことに起因する相互運用性の問題についてはサポートを拒否することがあります。サポートされるシスコトランシーバの一覧については、[サポートされる SFP/SFP+ トランシーバ](#)を参照してください。

(注) トランシーバを取り付ける際には、適切な ESD 手順に従ってください。背面の端子には触れないようにしてください。また、端子とポートは、ほこりや汚れが付いていない状態に維持する必要があります。未使用の SFP は静電放電パッケージ内で保管します。

### ステップ4 イーサネット インターフェイスを接続します。

適切なケーブルを使用して、4つの固定ポート内の SFP/SFP+ トランシーバ、またはネットワーク モジュールに接続します。

(注) イーサネット 1/1 (WAN) ポートは、インターネット アクセス用にデフォルトで設定されています。DHCP 対応ケーブル モデム (インターネット) をこのポートに接続します。

(注) イーサネット 1/2 (内部) ポートは、内部アクセス用にデフォルトで設定されています。Firepower 2100 のブートストラップは、イーサネット 1/2 または管理 0 でのみサポートされています。

### ステップ5 電源コードをアプライアンスに接続し、電源コンセントに接続します。

### ステップ6 リア パネルの電源スイッチを押します。

### ステップ7 前面パネルの PWR LED を確認します。緑の点灯は、アプライアンスの電源がオンであることを示します。

### ステップ8 前面パネルの SYS LED を確認します。緑色の点灯は、システムが電源投入時診断に合格したことを示します。

(注) 電源スイッチをオンからオフに切り替えると、システムの電源がオフになるまで数秒かかります。この間は、前面パネルの PWR LED が緑に点滅します。PWR LED が完全にオフになるまで電源ケーブルを抜かないでください。電源スイッチの詳細については、[背面パネル](#)を参照してください。

### ステップ9 Firepower 2100 シリーズセキュリティ アプライアンスを設定するには、オペレーティング ソフトウェアのクイック スタートガイドを参照してください。

- [Cisco Firepower Threat Defense for the Firepower 2100 Series Using Firepower Device Manager Quick Start Guide](#)
- [Cisco Firepower Threat Defense for the Firepower 2100 Series Using Firepower Management Center Quick Start Guide](#)



